

大区分	中区分	小区分	①調査の目的・テーマ	②過去の調査年度	③過去の調査方法・精度等	④調査体制 (検討会・分科会については略)	⑤成果物 (データ、データ形式、公開精度)
①種の分布等の調査	陸生動物	中・大型哺乳類(分布) ※要注意鳥獣(クマ等)生息分布調査、種の多様性調査(アライグマ生息情報収集調査)を含む	■中大型哺乳類の分布調査 ●保全施策対象となる種の抽出や、被害一防除対策等の検討上重要な種の基礎資料とし、全国分布・経年変化を把握	●第2回調査～2015-2021調査 ・1978：第2回 ・2000-2004：第6回 ・2006：第7回 ・2015-2021	●調査対象 ・第2回調査：8種(サル、シカ、ツキノワグマ、ヒグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ) ・第6回調査：10種(サル、シカ、ツキノワグマ、ヒグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ、カモシカ、マングース) ・第7回調査：アライグマ ・2015-2021調査：9種(アライグマ、ハクビシン、ヌートリア、ツキノワグマ、ヒグマ、カモシカ、キツネ、タヌキ、アナグマ) ●調査方法 ・都道府県/市町村へのアンケート・聞き取り(鳥獣保護員、狩猟者、有識者等を対象) ・既存資料データ収集：捕獲情報収集システム(2015-2021調査)、文献調査 ●調査精度 ・5kmメッシュ	●第2回～第6回調査 ・民間委託(とりまとめ) ・都道府県委託(アンケート・聞き取り) ●第7回調査～2015-201調査 ・調査実施、とりまとめ共に民間委託	●報告書(PDF) ●分布メッシュデータ(CSV、shp) ※5kmメッシュ ●生息情報レコード(CSV) ※2018-2021
		中大型動物(個体数推定)	■中大型哺乳類の個体数推定 ●科学的知見に基づく適切な保護管理施策のため、中大型哺乳類の全国的な個体数推定、効率的・効果的な個体数変動の把握に関する手法の提示等	●第7回調査 ・2009-2010：第7回	・中大型哺乳類5種(サル、シカ、ツキノワグマ、ヒグマ、イノシシ) ・対象種ごとの個体数推定	●民間委託	●報告書(PDF)
		陸生哺乳類(全種)		●第3回～第5回調査 ・1984：第3回 ・1989-1991：第4回 ・1997-1998：第5回	●調査対象 ・哺乳類全種 ●調査方法 ・専門家所有情報収集 ・文献・標本情報の収集 ●調査精度 ・1kmメッシュ	●民間委託(調査及びとりまとめ) ・調査員(専門家、都道府県の鳥獣保護員) ●都道府県委託(文献・標本情報収集)(第5回調査)	●報告書(PDF) ●分布メッシュデータ(CSV) ※第3～5回は10kmメッシュ ●調査対象種目録(CSV) ●自然環境情報図：1/20万、都道府県別(PDF)
		陸生鳥類	■全種の分布調査 ●保全施策対象となる種の抽出や、今後講ずるべき施策検討の基礎資料として、対象とする分類群の全種について、全国分布・経年変化を把握	●第2回調査～2016-2021調査 ・1974-1978：第2回 ・1984：第3回 ・1989-1991：第4回 ・1998-2004：第5・6回 ・2016-2021	●繁殖鳥類調査(第2回、5・6回調査、2016-2021調査) ・繁殖鳥全種を対象 ・現地調査(ルートセンサス) ・アンケート調査、既存資料調査 ・20kmメッシュ ●冬季の分布調査(第3回調査) ・冬季に分布する全種を対象 ・現地調査(ルートセンサス) ・1kmメッシュ ●集団繁殖地・集団ねぐら調査(第4回調査) ・集団繁殖地・集団ねぐらをつくる種 ・野鳥の会会員へのアンケート ・現地調査 ・20kmメッシュ	●第2回～6回調査 ・民間委託(とりまとめ) ・調査員(日本野鳥の会会員) ●2016～2021 ・NPO等5機関と環境省で「鳥類繁殖分布調査会」を設置 ・共同実施団体(6機関)、調査協力団体(50団体) ・調査員は市民参加で「いきものログ」を活用	●全調査共通 ・報告書(PDF) ・調査対象種名一覧(CSV) ・分布メッシュデータ(CSV) ※第2、3、5・6回は20kmメッシュで公開 ※2016～2021調査は、生きものログ上で20kmメッシュで公開 ※第4回(集団繁殖地・集団ねぐら)は非公開 ●集団繁殖地・集団ねぐら調査 ・自然環境情報図(PDF)
		両生類・陸生爬虫類		●第2回～第5回調査 ・1978：第2回 ・1984：第3回 ・1990-1991：第4回 ・1997-1998：第5回	●対象種 ・第2回は指標性のある種等に限定 ・第3回以降は全種を対象 ※昆虫類はトンボ類、チョウ類、ガ類、セミ類、水生カメムシ類、甲虫類に限定 ※陸産・淡水産貝類は第3回調査から対象 ●調査方法 ・現地調査、既存情報収集、標本情報収集 ●調査精度 ・1kmメッシュ ※第2回調査は1/20万分布図(都道府県別)	●民間委託(とりまとめ) ●専門家/学会に協力依頼 ●都道府県委託(文献・標本・現地調査)(第5回調査)	●報告書(PDF) ※第2回調査は報告書のみ ●調査対象種名一覧(CSV) ●分布メッシュデータ(CSV) ※10kmメッシュで公開 ※昆虫類、陸産及び淡水産貝類の第3回調査は非公開 ●自然環境情報図：1/20万、都道府県別(PDF)
		昆虫類					
		淡水魚類					
	陸産及び淡水産貝類						
	海棲動物	●沿岸環境保全のための基礎資料として、我が国の沿岸域に生息する大型海棲動物を対象に、分布・繁殖状況や生息域の現状等を把握	●1997-2002：第5回調査 ※日本近海で記録がある海生哺乳類8種の分布は、第3・4回動物分布調査、第5回生物多様性調査種の多様性調査(第1期)でも分布情報が得られている	●調査対象と方法 ①ウミガメ類 ・既存資料収集、現地調査、環境調査 ②鳍脚類 ・既存資料収集、アザラシ類及びトドの上陸数・個体数調査 ③鯨類 ・既存資料収集、航空機によるスナメリの目視調査と個体数推定	●民間委託(とりまとめ) ●専門家等に協力依頼(既往知見等整理、調査手法検討、現地調査等) ●都道府県委託(文献・現地調査)	●報告書(PDF)	
	植物	植物分布	●種の分布の全体像把握、重要な種の詳細な現況把握	●第5回、7回調査 1994-1999：第5回 2005：第7回	●第5回調査 ・文献及び標本調査(全種) ・現地調査(主にRDB種、重点調査種) ・1kmメッシュ(または10kmメッシュ) ●第7回調査 ・RDB種見直しで実施された現地調査と、本調査の前回調査時の情報を照合し布情報の再検討(10kmメッシュ)	●第5回調査：都道府県委託 ●第7回調査：民間委託	●報告書(非公表)
		植物目録	●植物種の全国分布調査にあたり、調査対象の明確化のため分類学上の考え方等を整理し、対象種選定の際の標準となるべき植物種の目録を作成	●第3回～第5回調査 ・1984-1986：第3回 ・1993：第5回	●植物の種レベルで全国的な分布調査を行う場合に対象種を決める際の標準となるべき植物種の目録を1987年に作成 ●1993年度からのRDB作成や第5回基礎調査での植物分布調査のため、1993年度に修正版を作成	●民間委託(とりまとめ) ・専門家に協力依頼	●植物目録(CSV)

大区分	中区分	小区分	①調査の目的・テーマ	②過去の調査年度	③過去の調査方法・精度等	④調査体制 (検討会・分科会については略)	⑤成果物 (データ、データ形式、公開精度)
②生態系調査 (面積・概況把握)	陸域	植生	●植物社会学的手法による全国の現存植生図作成	●第1回調査～現在 ・1973：第1回 ・1978-1988：第2・3回 ・1988-1999：第4・5回 ・1999～：第6・7回～	●空中写真判読と現地調査(開始当初) ↓ ●空中写真及び衛星画像判読、現地調査(現在)	●都道府県委託(～第4・5回調査) ↓ ●民間委託(第6・7回調査～)	●報告書(PDF) ●3次メッシュ植生データ(CSV) ●現存植生図 ・1/20万植生自然度図(PDF)(1973) ・1/5万現存植生図(shp,kml)(1978～1999) ・1/2.5万現存植生図(shp,kml)(19991～)
		特定植物群落	●学術上重要な群落、保護を要する群落等のリストアップ	●第2回調査～現在 ・1978：第2回 ・1984-1986：第3回 ・1997-1998：第5回 ・2016～	●特定植物群落の選定・調査(開始当初) ↓ ●前回結果を踏まえた追加・追跡調査、生育状況調査	●都道府県委託(～第5回調査) ・地元有識者(調査員) ↓ ●民間委託(2016～) ・植生調査に合わせて実施	●報告書(PDF) ●GISデータ(shp,kml) ●自然環境情報図：1/20万、都道府県別(PDF)
		土地利用・土地被覆	●関東地方の表土変化状況の実態を、戦後の3時期で次期列的に量的(面積)に把握	●1979：第2回調査	●関東地方(1都6県)を対象 ●空中写真判読、その他の資料から表土の変化状況を把握(昭和20, 35, 50年頃) ●1kmメッシュ	●民間委託(調査・とりまとめ)	●報告書(PDF)
	陸水域	河川	●河川の改変状況、魚類の生息状況、原生流域の状況等を調査し、国内の河川の自然性の現状及び利用状況を把握	●第1回～第5回調査 ・1973：第1回 ・1979：第2回 ・1985：第3回 ・1992：第4回 ・1998：第5回	●調査対象 ・51河川(第1回) ・全国の一級河川等(第2, 3, 5回)及び主要な2級河川等(第4回) ●調査内容 ・①既存資料収集(河川概要、利用・改変状況、理化学的性状、生物分布)、②自然度判定(第1回) ・①河川改変状況、②魚類の生息状況、③原生流域の状況、④河川概要(第2, 3, 4, 5回)	●民間委託(とりまとめ) ●都道府県委託(現地調査、資料収集等) ・地元有識者や市町村に協力依頼	●報告書(PDF) ●自然環境情報図：1/20万、都道府県別(PDF) ●GISデータ(shp,kml) ・第2～第4回調査：河川中心線・図郭線、魚類調査地点、調査区画区切り位置・河川中心線と図郭の交点)、第4回は原生流域集水域を含む
			●河川の改変状況、魚類の生息状況、原生流域の状況等を調査し、国内の河川の自然性の現状及び利用状況を把握				
		湖沼	●河川や湖沼等、陸水域の自然の現況の正確で総合的な把握 ●国内の主要な天然湖沼の自然性の消失の監視と保全のため、水質、湖岸の改変状況、魚類の生息状況等を把握	●第1回～第4回調査 ・1973：第1回 ・1979：第2回 ・1985：第3回 ・1991：第4回	●調査対象 ・67湖沼(第1回) ・主要な480の天然湖沼(面積1ha以上)(第2, 3, 4回) ●調査内容 ・①既存資料収集(湖沼概要、利用・改変状況、理化学的性状、生物分布)、②自然度判定(第1回) ・①湖沼概要、②水質、③湖沼改変状況、④魚類相、⑤プランクトン(第2, 3, 4回)	●民間委託(とりまとめ) ●都道府県委託(現地調査、資料収集等) ・地元有識者や市町村に協力依頼	●報告書(PDF) ●自然環境情報図：1/20万、都道府県別(PDF) ●GISデータ(shp,kml) ・湖沼形状、湖岸改変状況、水質調査地点
	湿地	●動植物の生育・生息地として重要な湿地の保全の基礎資料として、湿地の分布とその概要、生物相等を総合的に把握	●1993-1994：第5回調査	●調査対象 ・動植物の生息・生育地として重要な2196箇所(原則、面積1ha以上の自然に成立した湿地) ●調査項目 ①湿地概況調査：湿地の分布、面積、属性概要、保護と利用の状況 ②湿地詳細調査：特に重要な湿地について周辺部の影響モニタリング(植物、動物、水文、水質)	●民間委託(とりまとめ) ●都道府県委託(調査実施)	●報告書(PDF) ●GISデータ(Shp) ・分布地点、分布地域	

大区分	中区分	小区分	①調査の目的・テーマ	②過去の調査年度	③過去の調査方法・精度等	④調査体制 (検討会・分科会については略)	⑤成果物 (データ、データ形式、公開精度)	
続き ②生態系調査 (面積・概況把握)	沿岸域	海岸	●沿岸域の適切な開発と保全の基礎資料として、海岸及び海岸陸域の自然状態の現況を把握	●第1回～2017年度調査 ・1973：第1回 ・1978-1979：第2回 ・1984：第3回 ・1993：第4回 ・1995-1996：第5回 ・2010-2017	●調査対象及び内容 (第1回調査) ①全国の海岸線の改変状況、海岸線土地利用状況 ②特に代表的な17海域の水質、生物分布。環境庁が設置した委員会での自然性を総合的に判定 ●調査対象及び内容 (第2回～第5回調査) ・全国海岸域現況調査 (建設省, 1975)の「海岸区分計測図」に表示された海岸線 ・海岸線、海岸陸域の現況及び変化状況を把握 ●調査対象及び内容 (2010-2017年度調査) ・自然及び半自然海岸の砂浜・泥浜を対象。 ・1970年代と2000年代の2時期の空中写真、衛星画像を判読。汀線と後背基線に挟まれた範囲の土地被覆を5分類した土地被覆図を作成	●民間委託 (とりまとめ) ●都道府県委託 (現地調査、資料収集等) ・地元有識者や市町村に協力依頼	●報告書 (PDF) ●自然環境情報図：1/20万、都道府県別 (PDF) ●GISデータ (shp,kml) ・海岸線改変状況、浅部浅海域	
		干潟		●干潟：第2回～第6回調査 ・1978：第2回 ・1989-1992：第4回 ・1993-2001：第5回 ・2002-2007：第6・7回	●調査対象・方法 ①分布・消滅状況の把握 (第2, 4, 5回調査) ・現存又は1945年まで存在した干潟 (1ha以上) を対象。地形図、空中写真、既存資料、現地確認等から位置、面積等を把握 (第2回) ・現存干潟の分布、前回からの消滅状況を把握 (第4, 5回) ②生物群集調査 (第5, 6・7回調査) ・渡り鳥飛来状況 (全国120箇所) ・底生生物の調査 (全国120～157箇所)	●民間委託 (とりまとめ) (第2回, 4回) ●都道府県委託 (調査実施) (第2回, 4回) ↓ ●民間委託 (調査・とりまとめ) (第5回以降) ・専門家等に協力依頼 (?)		
		藻場	●沿岸域の重要な生物環境である干潟・藻場・サンゴ礁の分布や消滅状況を把握。各域の生物群集に関する基礎的データの集積と、全国調査に必要な簡便な調査項目・手法の確立	●藻場：第2回調査～2018-2020調査 ・1981：第2回 ・1988-1992：第4回 ・1993-1998：第5回 ・2002-2007：第6回・7回 ・2018-2020	●調査対象・方法 ①分布・消滅状況の把握 (第2, 4, 5回調査) ・現存又は1973年以後消滅した藻場 (20m以浅、1ha以上) を対象に干潟調査と同様の調査 ②生物群集調査 (第5, 6・7回調査) ・全国129箇所重点調査 (群落構成、垂直分布、現存量等)、簡易調査 (出現種の写真撮影等)	●民間委託 (とりまとめ) (第2回, 4回) ●都道府県委託 (調査実施) (第2回, 4回) ↓ ●民間委託 (調査・とりまとめ) (第5回以降) ・専門家等に協力依頼 (?)	●報告書 (PDF) ●自然環境情報図：1/20万、都道府県別 (PDF) ●GISデータ (shp,kml)	
		サンゴ礁		●サンゴ礁：第2回～2017-2021調査 ・1978：第2回 ・1989-1992：第4回 ・1997-2001：第5回 ・2017-2021	●調査対象・方法 ①分布・消滅状況の把握 (第2, 4, 5回調査) ・現存または1973年以降消滅したイシサンゴ群落 (トカラ列島以南、1ha以上) を対象に干潟・藻場と同様の調査 (第2回) ・造礁サンゴが分布する16都県で、空中写真や曳航観察等でサンゴ群集の被度、位置、面積、前回からの消滅状況を把握 (第4, 5回)	●民間委託 (とりまとめ) (第2回) ●都道府県委託 (調査実施) (第2回) (?) ↓ ●民間委託 (調査・とりまとめ) (第4回以降) ・専門家等に協力依頼		
		砂泥浜・磯浜等 (潮間帯・潮上帯)	●我が国の海岸域の潮上帯及び潮間帯の生物相を把握。潮間帯付近の生物群集の動向の継続的把握により、海岸域の環境の変化を捉える	●第2回～第5回調査 ・1979：第2回 ・1984-1986：第3回 ・1996-1997：第5回	●調査対象 ・海岸を有する39都道府県の砂泥浜と磯浜等に107の調査地区を設定 ●調査方法 潮間帯別にコードラートを設置し、年2回 (春と夏) の現地調査 (磯浜は枠内の動植物種名と被度、砂泥浜は埋生生物を採集湿重量等を記録)	●民間委託 (とりまとめ) ・第2回は調査実施も民間委託 ●都道府県委託 (調査実施) ・専門家等に協力依頼 (?)	●報告書 (PDF)	
		海域環境 (赤潮)	●汚濁が進む沿岸域の現状を生物の生息状況を通して把握するため、プランクトン、底生生物、付着生物等について調査	●1978：第2回調査	●調査対象・内容 ・全国91海域を対象に、プランクトン、底生生物、付着生物、大腸菌、赤潮の発生状況について、昭和48～52年の既存調査データを取集・整理	●民間委託 (とりまとめ) ●都道府県委託 (調査実施)	●報告書 (PDF)	
	全域	景観	●自然環境保全上重要な要素である自然景観の基盤を成す地形、地質及び自然景観として認識される自然現象に着目し、位置及び特性等を全国的視野で把握	●1986-1988：第3回調査	●調査対象 ・自然景観の基盤をなす地形、地質及び、自然景観として認識される自然現象等の観点から「陸景」「水景」を選定。 ●調査方法 ・専門家による文献調査、ヒアリング、図上計測を主体に、必要に応じて現地調査を実施	●都道府県委託 ・調査員 (地形学、地質学等の専門家)	●報告書 (PDF) ●自然環境情報図：1/20万、都道府県別 (PDF)	
		すぐれた自然	●守るべき自然、復元・育成・整備すべき自然は何かを明らかにし、全国的な観点で自然保護行政を推進する基礎資料の整備	●1973：第1回調査	●調査対象 ・植物、野生動物、地形・地質、自然現象、海中自然環境、歴史的な自然環境の5項目について、	●民間委託 (とりまとめ、空中写真判読等) ●都道府県委託 (調査実施) ・地元有識者や市町村に協力依頼	●報告書 (PDF) ●すぐれた自然図：1/20万、都道府県別 (紙)	
	③インベントリ調査	地域的総合調査	地域的総合調査 (生物多様性地域)	●生物多様性の保全上で重要な生態系が成立している地域について、生態系の構成要素と構造の総合的な把握と、保全指針の作成に必要な基礎資料の整備	●第5回～第6回調査 ・1993-2000：第5回 ・2000-2003：第6回	●全国13の地域で以下の調査を実施 ①生態系の構成要素の把握 ・種リスト作成 ・野生動植物種の詳細な分布把握 ・指標動物等の個体数計測・推定 ②生態系の構造把握 ・植物群落 (種組成、群落構造) の把握と植生図作成 ・指標動物の個体群動態把握 ・植生現存量、植生生産量把握 ・気象、地形等無機的環境把握	●都道府県委託 (調査実施・とりまとめ) ・都道府県の試験研究機関等 ●民間委託 (調査実施・とりまとめ) ・地元有識者等に協力依頼 ※奄美諸島地域のみ	●報告書 (PDF)
			基礎データの整備 (環境寄与度)	●生態系における生物的要素が人間の生活環境に寄与している度合い「環境寄与度」を評価・表現する手法を検討。	●1973：第1回調査	●調査対象 ・関東地方の1都6県 ●調査内容 ①植生現存量、植生生産量 ・空中写真判読による現存量把握と平均単位現存量の算出 ・植生現存量図、植生生産量図を作成 ②鳥類調査 ・夏と冬の年2回、5万分の1地形図を16等分した区画ごとに、現地調査及び既存資料により生息する鳥類の種数を記録し、鳥類種数分布図を作成	●民間委託 (とりまとめ、空中写真判読等) ●都道府県委託 (調査実施) ・地元有識者や市町村に協力依頼	●報告書 (PDF) ●地図類 ・植生区分図 (PDF) ・植生現存量図 (PDF) ・植生生産量図 (PDF) ・鳥類生息分布図 (PDF)

大区分	中区分	小区分	①調査の目的・テーマ	②過去の調査年度	③過去の調査方法・精度等	④調査体制 (検討会・分科会については略)	⑤成果物 (データ、データ形式、公開精度)
④ その他	一般参加型調査	巨樹・巨木林	●わが国の森林・樹木の象徴的存在、良好な景観形成や野生動物の生息環境、地域のシンボル等、保全すべき自然として重要な巨樹・巨木林の全国的な実態把握	●第4回調査～現在 ・1988-1989：第4回 ・1999-2000：第6回 ・2005～	●第4回：全国より55,798本の巨樹を報告。 ●第6回：フォローアップ調査を実施。新たに全国より11,572本の巨樹を報告。 ●2011年度までの間に新たに約1,500本の巨樹を報告。	●2005年以降、市民調査に移行し調査を継続 ●2013年から、巨樹・巨木林データベースシステム運用開始。市民調査にウェブサイトを活用	●報告書 (PDF) ●GISデータ (shp,kml)
		海の生きもの	●沿岸域の環境把握及び保全に資する基礎資料を得るため、ダイバー等からの情報提供により、魚類を中心とする海の生物の地理的分布を調べ、「海のいきもの地図」を作成	●1990：第4回調査	●全国を対象に、43種類の海の生物（主に魚類）の分布を1kmメッシュで把握、「海の生きもの地図」を作成	●ダイバー等のボランティア参加・協力	●海の生きもの地図 (PDF)
		生きもの全般 (特に、身近な生きもの)	●身近な自然の全国一律・一斉調査による、専門研究者だけでは困難な多数の情報収集と、国民への普及啓発を目的に「身近な生きもの調査」として開始。その後、Web上の情報収集・提供システムを活用した「いきものみつけ」、「いきものログ」へ移行	●第3回調査～現在 ○身近な生きもの調査 ・1984：第3回 ・1990：第4回 ・1995-1997：第5回 ・2000-2001：第6回 ○いきものみつけ ・2007～2013、2017 ○いきものログ ・2013～	●「いきものログ」に一般市民が生物の目撃地点情報等を投稿。 ●各主体がいきものログ上で「調査」を立て、データ登録を参加者に募る	●事務局運営を民間委託 ●市民参加調査 ・一般利用者による目撃地点の投稿 ・登録団体が立ち上げた各種調査への投稿	〈身近な生きもの調査〉 ●報告書・パンフレット (PDF) ●分布メッシュ・緯度経度データ (PDF、CSV) ※CSVは第5回セミ、ひつつきむし、ツバメのみ。3次メッシュ+緯度経度小数点以下1桁までダウンロード可。 〈いきものログ〉 ●分布データ (CSV、shp、kml) ※原則10kmメッシュ (外来生物はポイント)
	過去の鳥獣分布調査	江戸時代の鳥獣分布	●過去の動物分布の概略を明らかにし、現代の分布の歴史的な形成過程・意味を解明する手がかりを得ることで保全施策に資する	●1985-1986：第3回調査	●種の絶滅や減少の過程・メカニズム解明や、今後の野生生物保護管理の基礎資料として、江戸時代に作成された「享保・元文諸国産物帳」等に記載された獣類13枚、鳥類17枚の1730年代における分布図を作成	●民間委託 (調査実施・とりまとめ)	●報告書 (HTML)
	遺伝子に関する調査	遺伝的多様性	●野生生物の遺伝的多様性に関する基礎情報の収集と把握手法の検討	●1996-1999：第5回調査	●調査対象 ・主にレッドリスト種や日本固有種である約40種 ●調査内容 ①既存情報の収集整理 ②現地調査による試料採集 ③上記②の試料の遺伝子分析	●民間委託 (とりまとめ) ・専門家に協力依頼	●報告書 (PDF)
	気象に関する調査	積雪情報	●2005年度の大雪とガンカモ科鳥類等の野生動物の生息状況の関係等を解析する基礎資料として、データ収集整理とメッシュデータ化	●2005：第7回調査	●調査対象・内容 ・全国を対象 ・気象庁のアメダスデータを元に平成12～17年度までの各年度の日別積雪観測値の収集と1kmメッシュ単位で全国の積雪深の推定値を算出。 ※アメダスデータから推計したものの整理 (環境省が調査したものではない)	●民間委託	●報告書等 (非公表)
	手法開発・手法検討	リモートセンシング	●リモートセンシング技術の活用を図り、特に経年変化が大きい里地里山等を中心に、自然環境の概況把握を迅速化する手法開発を行い、今後の自然環境調査の立案検討に資する	●2007-2009：第7回調査	●特に経年変化が大きい里地里山等を中心とした自然環境の概況を迅速に把握する手法開発として、下記の調査を実施 ①全国植生概況把握調査 (MODISデータ、時系列NDVIによる植生分類等) ②中間分解能衛星データの利用検証 (ALOSデータ、相観植生図) ③高解像度衛星データを用いた竹林分布変化の把握 ④ALOSデータによる相観植生図の精度検証 ⑤ALOSデータによる湿地植生分類図の精度検証 ⑥無人飛行機による低高度空中写真による植生解析	●民間委託	●報告書等 (非公表)
		モニタリング (生態系総合モニタリング)	●特定の地域を選定し、生物群集と無機的環境が人為的影響で変化する過程をモニタリング。人も含めた生態系を総合的に捉えるモニタリング手法の検討・確立	●第4回～第5回調査 ・1990-1993：第4回 ・1996-1997、2000-2001：第5回	●調査対象・方法 ・都市化が進行中/都市化の影響を受けている地域を5地域選定 ・10km×10kmの広域で、自然環境 (植生、植物相、動物相)、社会環境 (土地利用、歴史、法指定、人口等) の既存資料調査 ・1km×1kmの重点地域で、既存資料、航空写真、現地調査で人為影響の程度を把握。現地調査で植生、動物相、土壌等を調査	●民間委託 (とりまとめ) ●都道府県委託 (調査実施)	●報告書 (PDF)
		調査手法検討のための調査 (種の多様性調査:都道府県委託調査)	●生物多様性保全施策の基礎資料を得るため、今後の基礎調査やモニ1000等の実施に当たり、全国的にモデルとなる調査手法の検討に資する調査課題をを採択	●第6回～第7回調査 ・2003-2004：第6回 ・2005-2008：第7回	●都道府県から調査課題を募集し、以下の基準に基づき採択した調査を都道府県に委託して実施 ・2003-2008年度の間で66件の調査を実施 ①生態系モニタリング調査 (モニ1000等) の実施に当たってモデルとなる調査 ②同様の調査手法の検討調査 ③GISを活用した情報収集・解析システムの利用や開発のための調査 ④リモートセンシングを活用した調査手法の開発 ⑤上記以外で、今後の基礎調査の実施にあたって全国的にモデルとなり得る調査	●都道府県委託	●報告書 (PDF)